

エネルギー政策に関わる、学術組織と、政界・官界・財界と、一般市民の認識の差異。  
……あるべき原子力政策を目指して。……

Miyauchi Institute of Social-ty 宮内紀靖(みやうちとしやす)

## I 目的

エネルギー政策、原子力発電に関わる組織と一般市民(国民)との、認識には多大の差異がある。その原因と理由を解明し、あるべき原子力政策を提言する事を目的とする。

## II 方法

学術組織と学者、政界・官界・財界と、一般市民の間の認識の差異から、原子力政策就中原発政策を捉え、その問題点を析出して現在の原発に関する矛盾・過誤を、比較検討・考察して、如何様にすれば人類にとって、最善の対策が取れるかを、分析・総合して研究する。

分析・総合するうえで最も考慮しなければならないのは、原発の原理についてのセクターの理解の深さの差異である。原発と原爆の原理に関してや、人類にとってのエネルギーの意味、経済性とリスクの意味など、専門家たる物理学者と、政界・官界・財界・市民との理解の差異の大きなことは、この問題の解決に大きな妨げとなっている。

アインシュタインの相対性理論に立脚する、核分裂の爆発的エネルギーと、その原材料を取り出す原子炉の発明と、原子炉を安定的に動かし熱エネルギーを取り出す原発の問題と、人類にとって不要な大容量の放射能などというものの、歴史的考察と、日・米・英・仏などとの地域比較、他の酸化燃焼エネルギーとの哲学的比較考察を行い、日本での原子力基本法の三原則の民主・自主・公開という視点から原子力・原子炉・原発の問題点を考察する。

## III 結果

原発と原爆に関し、専門家はその利用態様は異なるものの、原子炉の必要が同じであることを理解するが、政界・財界・市民には、兵器と平和利用と全く異なるものとして認識させた。官界は気が付きながらも情報を公開せず原発推進を行なった。

原子核分裂の、プルトニウムを取り出すという目的外の、放出熱エネルギーを発電化するという、新しくない技術を『夢のエネルギー』として提示、原子力村の技術者・官界らが政界・財界・市民を欺いていた。

原子炉内での原子核分裂によって産出される物のうち、人類にとって有毒である放射能を意図的に隠ぺいし、『夢のエネルギー』と説明。ついで化石燃料エネルギーの枯渇を補う『安定的エネルギー』、次いで温暖化対策としての『クリーンエネルギー』と、原子力発電が理想のものであるとの虚偽を言い続けた。

民主・自主を行わず、公開しないだけでなく、嘘の上に嘘を重ね虚像を理想のものとして提示した。結果は決して安全なものではなく人類を滅亡の方向へと導いた。

## IV 結論

今までの説明が虚偽であったのだから、原子炉を用いる発電は人類の役に立たない無駄で・非合理・非効率・虚偽の技術・悪魔的技術であるから、即時廃止すべきである。